



**KSB瀬戸内海放送**

**FM香川**



建物概要

所在地 / 香川県高松市  
敷地面積 / 6,728.10 m<sup>2</sup>  
建築面積 / 2,534.82 m<sup>2</sup>  
延床面積 / 6,598.87 m<sup>2</sup>  
建物用途 / 放送局  
階数 / 地上4階  
建物高さ / 23.94 m  
軒高 / 19.38 m  
構造 / 鉄骨造  
免震構造 / 一部耐震構造

航空写真から望む高松の街並み。新社屋から栗林公園、高松港、瀬戸内海へと自然豊かな回りの風景が連綿する。



ボリュームの分節により、周辺の街並みスケールと調和する建物外観



企業のシンボルであり、地域のランドマークとなる鉄塔と新社屋



南西から建物外観を眺める



敷地上空南西からの航空写真



西側前面道路から建物外観を眺める

## つながりを生む放送局

香川県高松市に拠点を置くKSB瀬戸内海放送の本社屋移転計画である。四季を通じて移ろう庭を様々な角度から楽しめる建屋配置や設えとすることで、同じ庭があった旧社屋の記憶を継承し、瀬戸内の豊かな風土と共にある同企業の理念を建築的に具現化している。また周囲に対し幾分閉じて見え隠れをつくる一方、平断面の抜けにより施設全体がどこまでも緩やかにつながる空間構成とし、放送局に求められるセキュリティを保ちつつ、社員や訪れた人全てがどこにいても連帯感を感じられるようにした。庭をもつ大きな家のような放送局である。

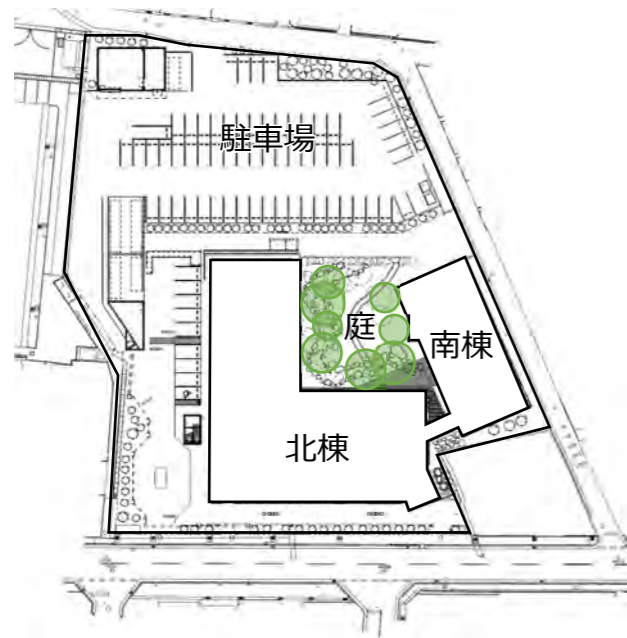
今後の地方放送局には、地域のありようを正しく伝え、既存の文化とビジネスを守りながら新たなモデルをつくりだし発信し続ける役割が求められる。そしてその中に自らの新たな方向性も見出していく必要があると考える。

新社屋が庭を中心に、社員同志のみならず社員と地域 / ステークホルダーとの距離も縮める場となるなら、社会や地域の本質的ニーズと常に向き合うことができ、新たな活動や発想が生まれ、それが発信される場へと変わっていく。

この「閉じながら開く」環境により、やがて庭が地域の記憶を形づくる“へそ”のような存在となり、建屋が社会と“へそ”をつなぐ役割を担うことで、KSB瀬戸内海放送が地域と共に成長し、地域に根付く存在となり続けることを願う。

# 1 日常の中心に庭を配する計画

庭を取り囲むコの字型施設配置とし、フロアのフレキシビリティを保ちつつ、建屋の多から自然の景色を楽しめる計画としている。  
 周辺住宅地への配慮やセキュリティ、日照条件等により、周囲に対しては幾分閉じる側面を持たせながら、庭に対して開放的な設えとすることで、光や風が感じられ、社屋の利用者の意識が自然と庭に向く環境を築いた。  
 また庭は芝生空間を中心に撮影や様々なイベントに使える場とすると共に、室内とつながりをもつテラスを随所に配置することで、屋外空間の積極利用を促す等、利用者にとって建物と庭が等価に感じられるような環境の形成を試みている。



各所に“出やすい”テラスを設け、内部と外部の繋がりを強めている。また勾配屋根によって庭やデッキから眺める風景に広がりを与えている。



旧社屋の庭



テレビ撮影など、日常的に使える庭



談話やテレビ撮影、コワーキングスペースとして日常的に利用される屋外テラス



庭と緩やかに繋がる社員食堂内の素足エリア



新社屋の中心に位置するエントランスホール空間は、2層吹抜けでダイレクトに庭へと視線が抜ける開放的な空間とするとともに床面や天井面に庭の緑を映し込むことで庭を内部空間に呼び込んでいる。床は研ぎ出しコンクリート、壁は地元観音寺の瓦土を練り込んだ陶器質タイル。



庭から南棟・北棟を見た夜景



朝日が差し込み、動線が交錯する場所に設けられたピクチャーブルカフェ



上階の執務空間や庭と直接つながる社員食堂の百菜屋



立体的につながる庭、テラス、内部空間



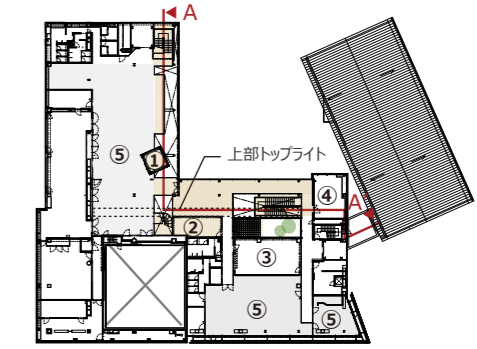
庭にフォーカスする3階廊下の地窓



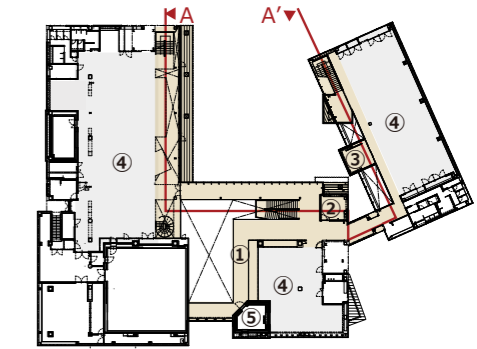
水景には野鳥が居付き始めている



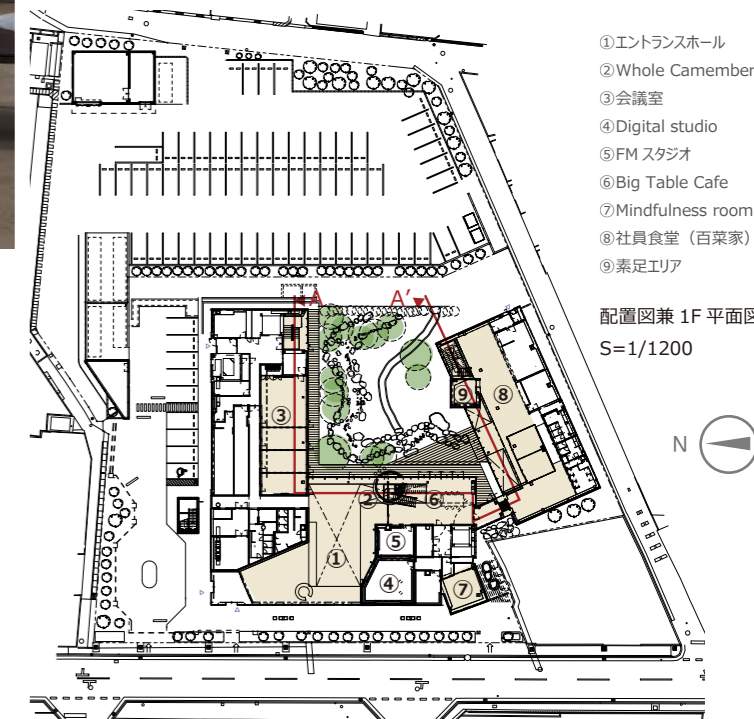
ずれながら重なる平断面の抜け



- ① IDEA PORT
  - ② COLLABORATION ROOM
  - ③ Decision room
  - ④ 応接室
  - ⑤ オフィス
- 3F 平面図  
S=1/1200



- ① ライブラリー
  - ② On Deck
  - ③ DESIGN LAB
  - ④ オフィス
  - ⑤ FM スタジオ
- 2F 平面図  
S=1/1200



- ① エントランスホール
  - ② Whole Camembert
  - ③ 会議室
  - ④ Digital studio
  - ⑤ FM スタジオ
  - ⑥ Big Table Cafe
  - ⑦ Mindfulness room
  - ⑧ 社員食堂 (百葉家)
  - ⑨ 素足エリア
- 配置図兼 1F 平面図  
S=1/1200

庭を囲むように多様なコワーキングスペースをシームレスに配置し、居心地の良さや働く場の選択制を高めている。



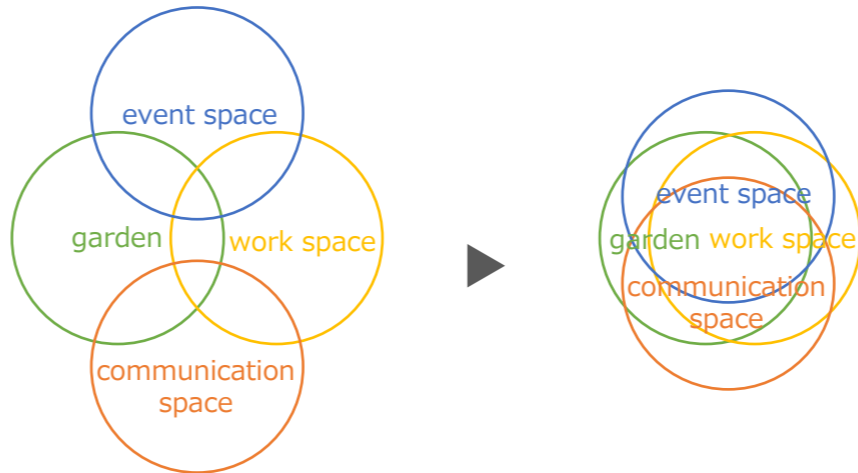
エントランスホールを中心にスタジオやライブラリ、コワーキングなど様々なアクティビティが連鎖する。天井は庭の緑を映し込み内部に庭を引き込む素材、壁はコーヒー豆などのリサイクル材も利用したセメント板による内壁。

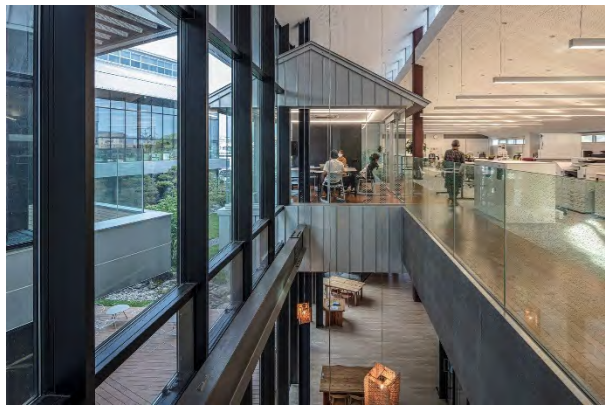
## 2 新たな気づきと出会いを生む空間構成

スタジオや会議室等の個室やユーティリティ部分など機能上必要な部位を除き、間仕切りを極力を設けずオープンな空間とする中、ずれながら重なる平断面の抜けを緩やかに連続させ、庭の周囲に施設全体がつながる一体的なワークスペースを構築した。

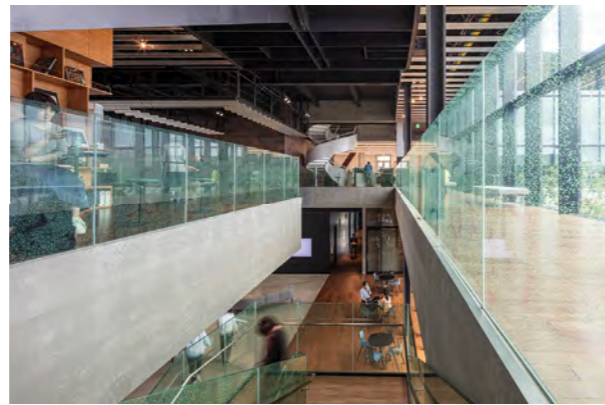
オープンでありながら、平断面方向の奥行や建物軸を活かした柔らかい領域化、ガラスへの映り込み等で適度な見え隠れを作り、あけっ広げではない居心地の良さを生むことで、天候や気分、活動内容に応じて利用者が自分の居場所を見つけやすい環境を形成している。

場の選択性を高めて活性化されるアクティビティは、一体空間を通じて互いに影響し合うことにより、少しずつ新しいアイデアや活動へと変わっていく。





a. 吹き抜けを介して連続する1F食堂と2FDESIGN LAB・オフィス



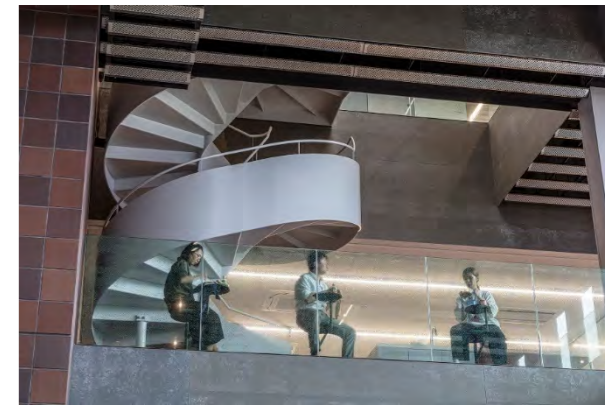
b. 奥行きのある一体空間の中で連続する活動の風景



c. 光庭を介して、見え隠れする活動の風景



d. エントランス空間の一部となるライブラリー



e. エントランスに面したキッチンとワーキングスペース



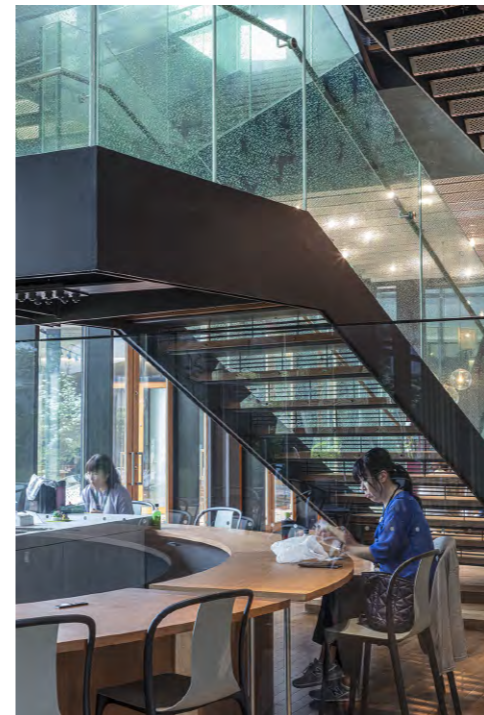
f. 庭を背に活動の風景が連続する食堂兼ワーキングスペース



g. 立体的に交錯する社員のアクティビティ



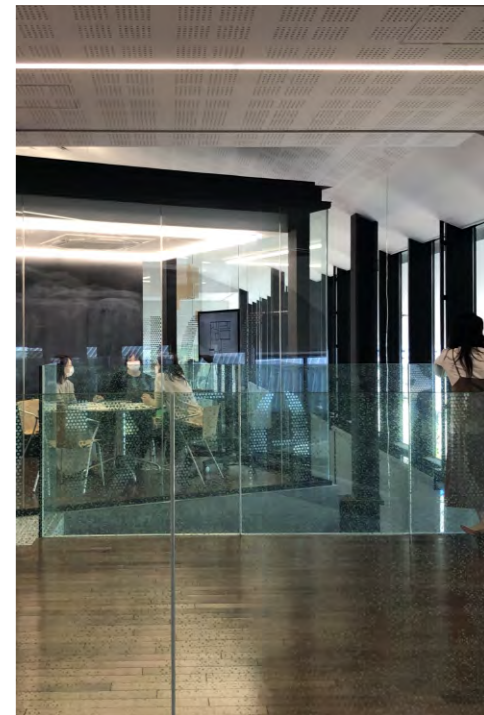
h. 適度なブラインド効果を見込むガラスへの映り込み



i. 自分の居場所を見つけやすい多様な空間

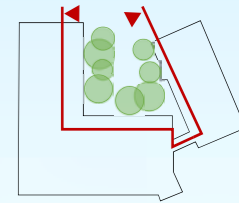
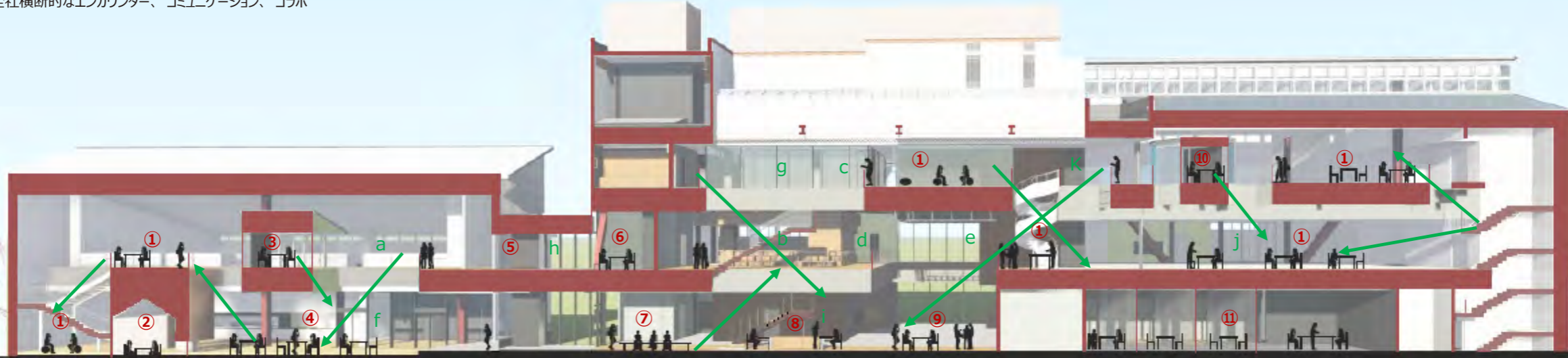


j. 空間と人を結び吹き抜けと螺旋階段



k. 下階や同階で柔らかいつながりを生む空間構成

庭の周囲に平断面のスライ吹き抜けを介して施設全体がつながる一体的なワークスペースを展開。これにより部門や社内外の垣根を超えた全社横断的なエンカウンター、コミュニケーション、コラボレーションが生まれる環境を形成。



A-A'断面図

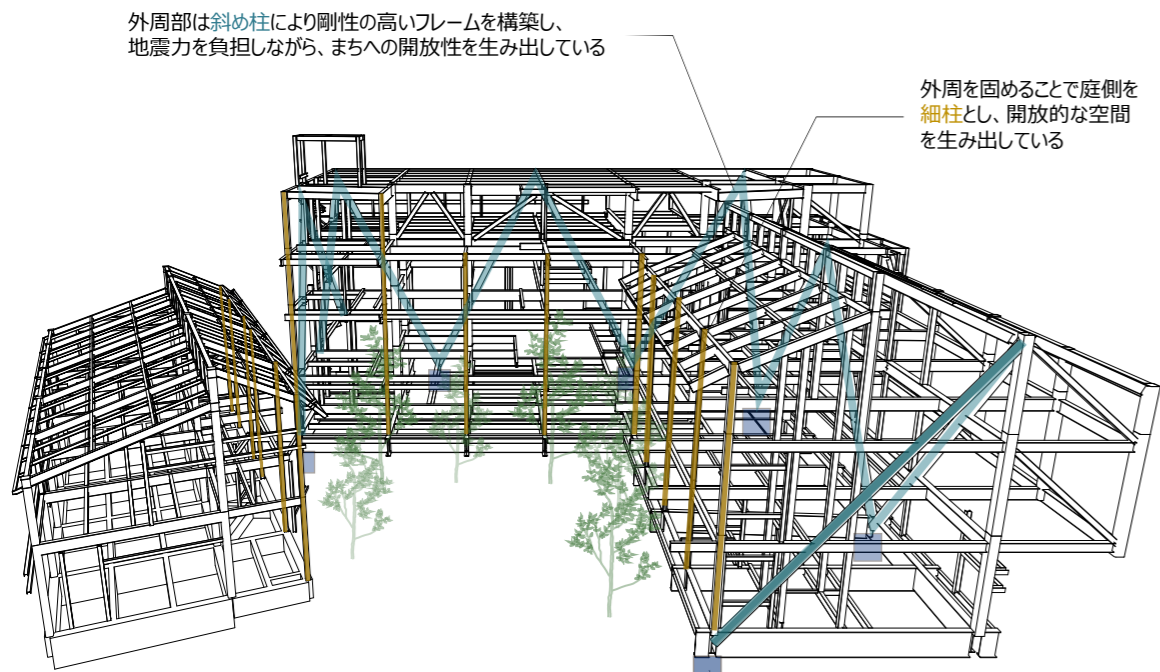
①ワーキングスペース②素足エリア③DESIGN LAB④食堂⑤渡り廊下⑥ On Deck ⑦Big Table Cafe ⑧Whole Camembert⑨エントランスホール⑩ IDEA PORT ⑪会議室



### 3 広がりと一体感を生む設え

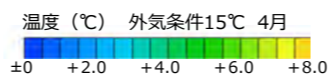
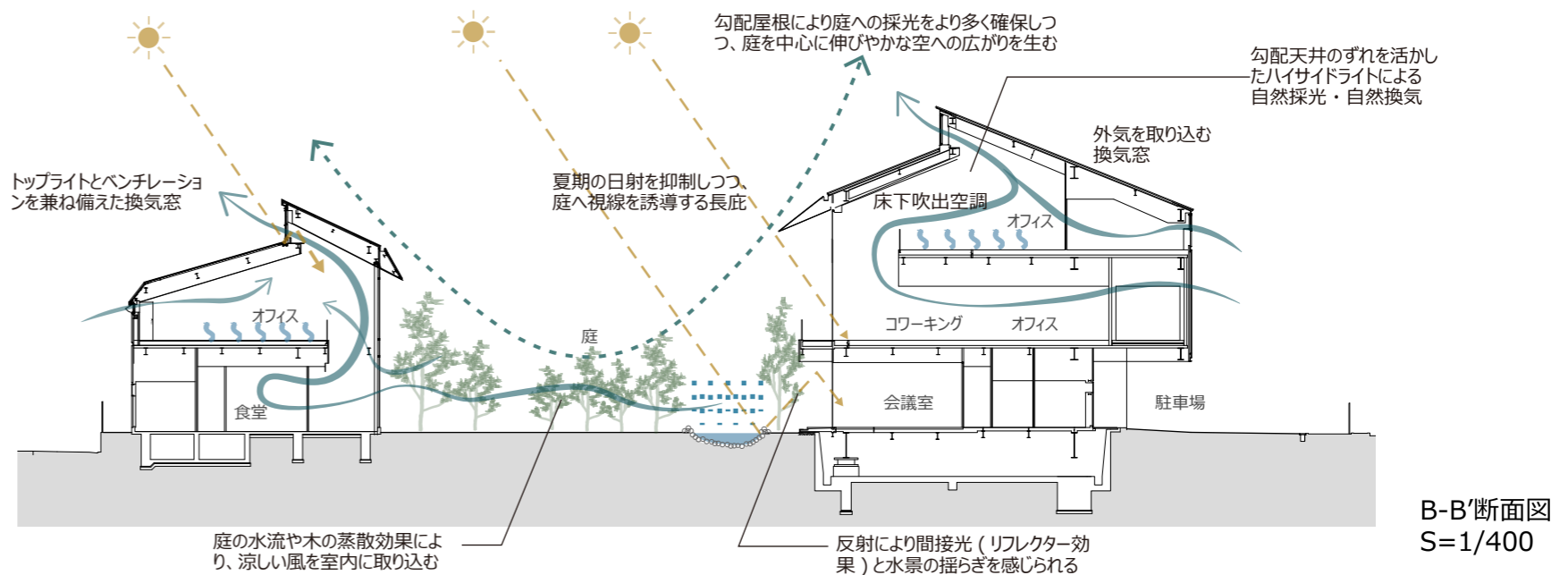
#### 3-a. 庭に開く構造計画

構造計画においては、基礎免震構造を軸に放送局としての信頼性を高めた上で、施設外周部を斜め柱により固めて庭側を細柱のみで構成し、庭と建屋のつながりを強めている。

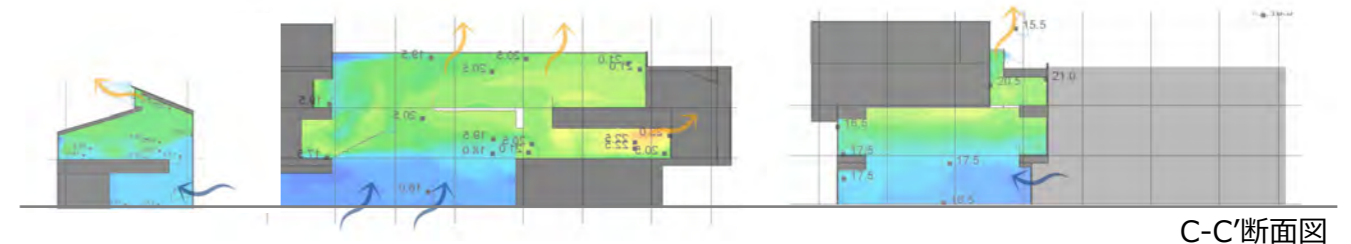


#### 3-b. 一体空間を活かした自然換気・採光計画

水平換気(卓越風と庭の存在を活用)と重力換気(一体空間を活用)を組み合わせた自然換気システムと自然採光(多様な開口や軒、日除けを活用)を居住域空調/抑揚ある照明計画と融合させ、年間を通じた空調・照明負荷の低減につなげている。



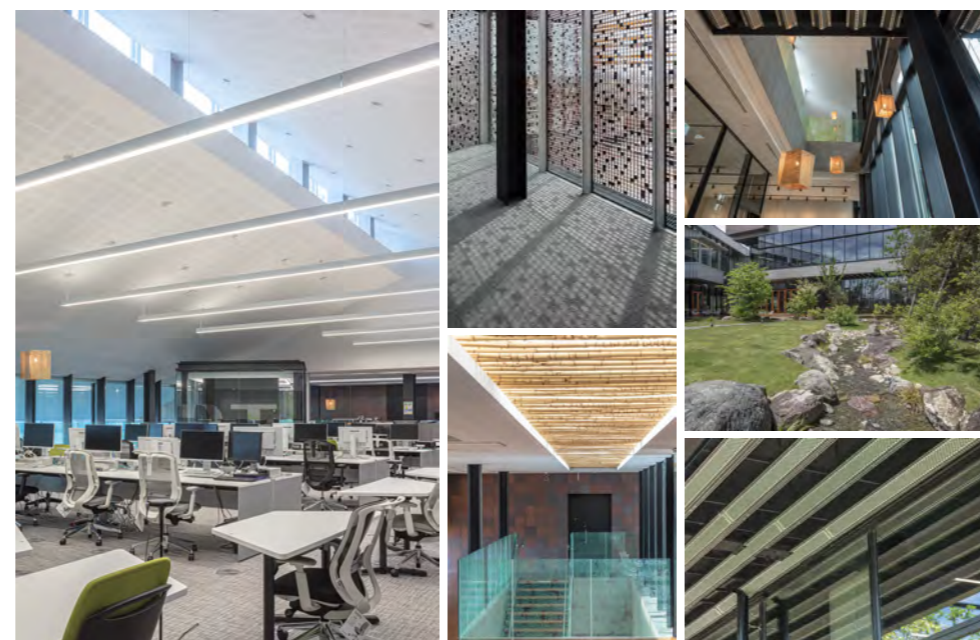
庭を介して取り込まれた風は、壁のない一体空間を抜け、居住域の温度を快適に保っている



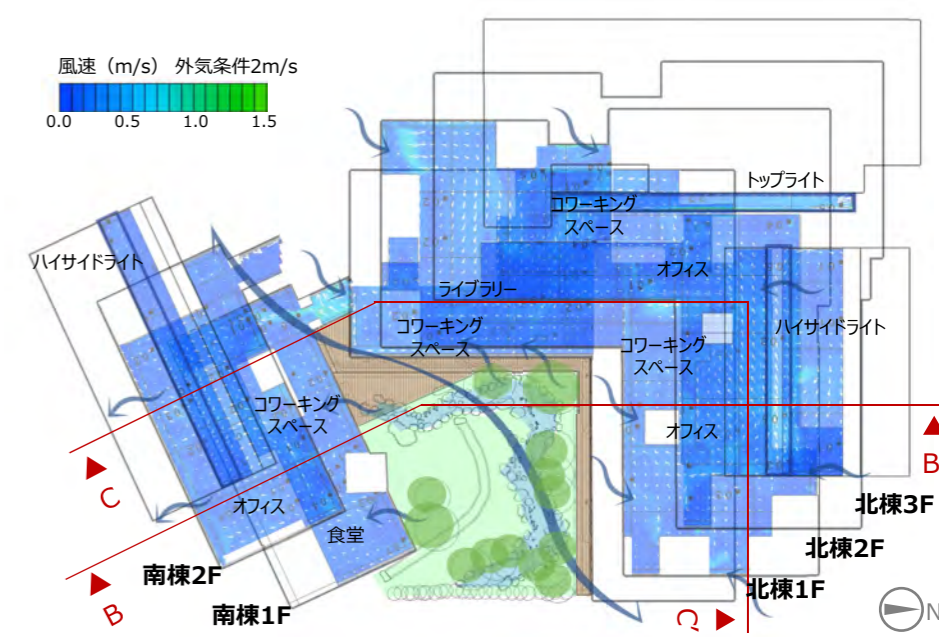
細柱により庭への開放感を高める



足元の柱を束ね、まちへの開放感を高める



左 勾配天井のずれを活かしたハイサイドライトによる自然採光・自然換気  
中央上 西陽を効率的に軽減する格子状鋼製ルーバー(ランダムな塞ぎ板は、風切音防止対策の実験結果を踏まえたもの)  
中央下 竹ルーバーによる日射抑制  
右上 揺らぐことで風を可視化する竹照明  
右中 蒸散効果を生む庭の水景  
右下 リフレクター効果を生む天井材



高松では、1年を通じて東西方向の風が安定して吹いており、春から秋にかけて北側からの風も比較的多く吹く傾向にある。庭を取り囲むコの字型プランは、主として東側からの卓越風を庭を介して建屋に取り込むだけでなく、先述の方面からの風を受け止め、一体的空間構成や適切な開口配置と併せて、水平・垂直方向に抜けやすい環境を形成する。

## 4 庭と響き合うデザイン

### 4-a. 多様なエイジングマテリアル

地元由来且つ経年による変化が楽しめる素材を積極的に用いることで、庭と共に永く地域の印象を形づくる場に相応しい環境をデザインしている。



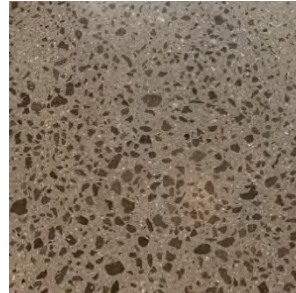
庭と共に経年で風合いが変化する外壁（タイル・ガルバリウム鋼板・押出成形セメント板の素地仕様）

金毘羅の五三竹を使った日除けルーバー



庭と共に経年で風合いが変化する木製建具

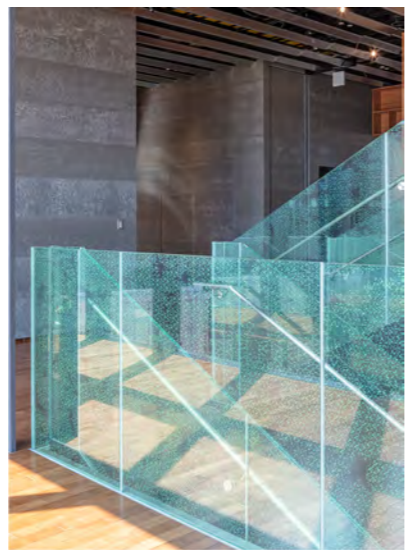
真竹をやたら編みした竹照明



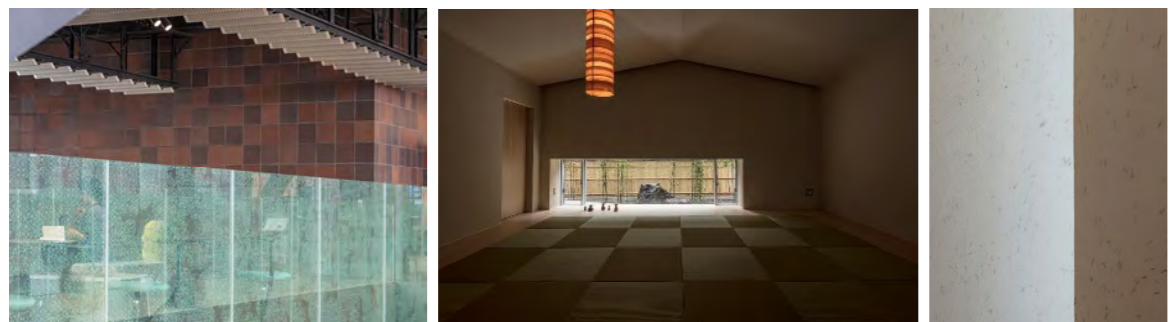
地場骨材を使用したコンクリートを研ぎ出した床



内装には暖かみのある木材も多用



コーヒー豆などのリサイクル材も利用したセメント板による内壁



観音寺の瓦土を練り込んだタイル

マインドフルネスルームの壁には、讃岐かがり手毬に使われる木綿糸を練り込んだ左官材を用いた

### 4-b. 自然のかけらとしてのデザイン

自然や人の営みの映り込みやグラフィックを活かし、虚像を施設内に浸透・拡散させることで、庭を軸に据えた企業の世界観がより印象深く社屋全体に響き合う設えとしている。



高松の空が映り込む外壁サイン

ガラスの映り込みにより、光庭に内部のアクティビティが溶け込む

印象的な光を室内に導くグレーチング



庭の緑を映し込み内部に庭を引き込む天井材

庭の緑を建屋内部へ引き込む研ぎ出しコンクリート



庭や活動を映し込むドットサイン

グラフィックの緑と樹木の緑が重なり奥行きを生む



効果的に鏡面仕上げを用いて広がりを与える



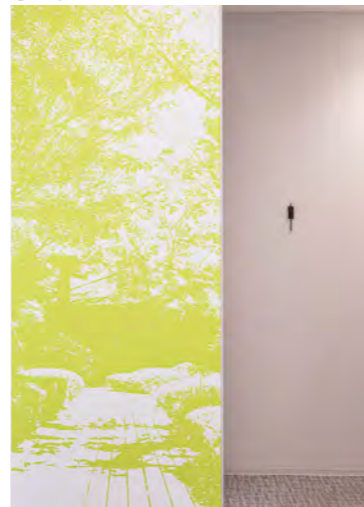
周囲の景色を映し出す階数サイン



西陽も空間演出に取り込む 庭の景色を映し出す室名サイン



緑の映り込みを想起させるフラクタル柄グラフィックプリントが施されたガラス手摺



旧社屋の庭の情景を継承するグラフィック



透明でありながら風景を映し込み存在感を得るサイン



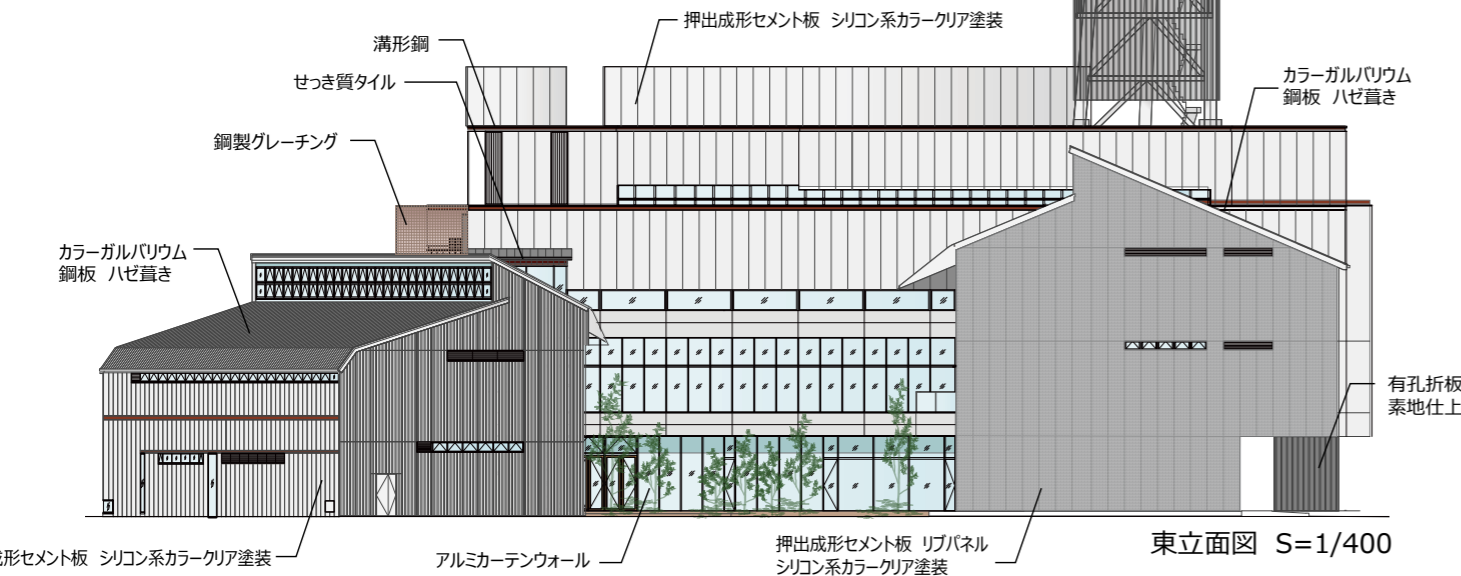
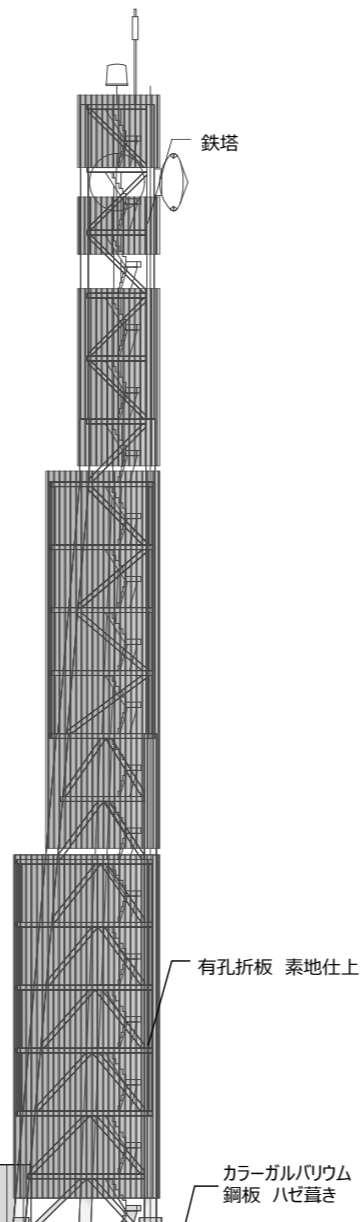
安全をデザインする - design for safety

瀬戸内海放送新社屋の車両出入口に設置される車両出入口用ミラー兼オブジェ。ミラーには、車や自転車、歩行者だけでなく、季節や天気、空や緑、地域の営みが常に映り込み、街角の安全と共に、ささやかではあるが新しい景色が生み出される。

## 5 地域に根付く営み

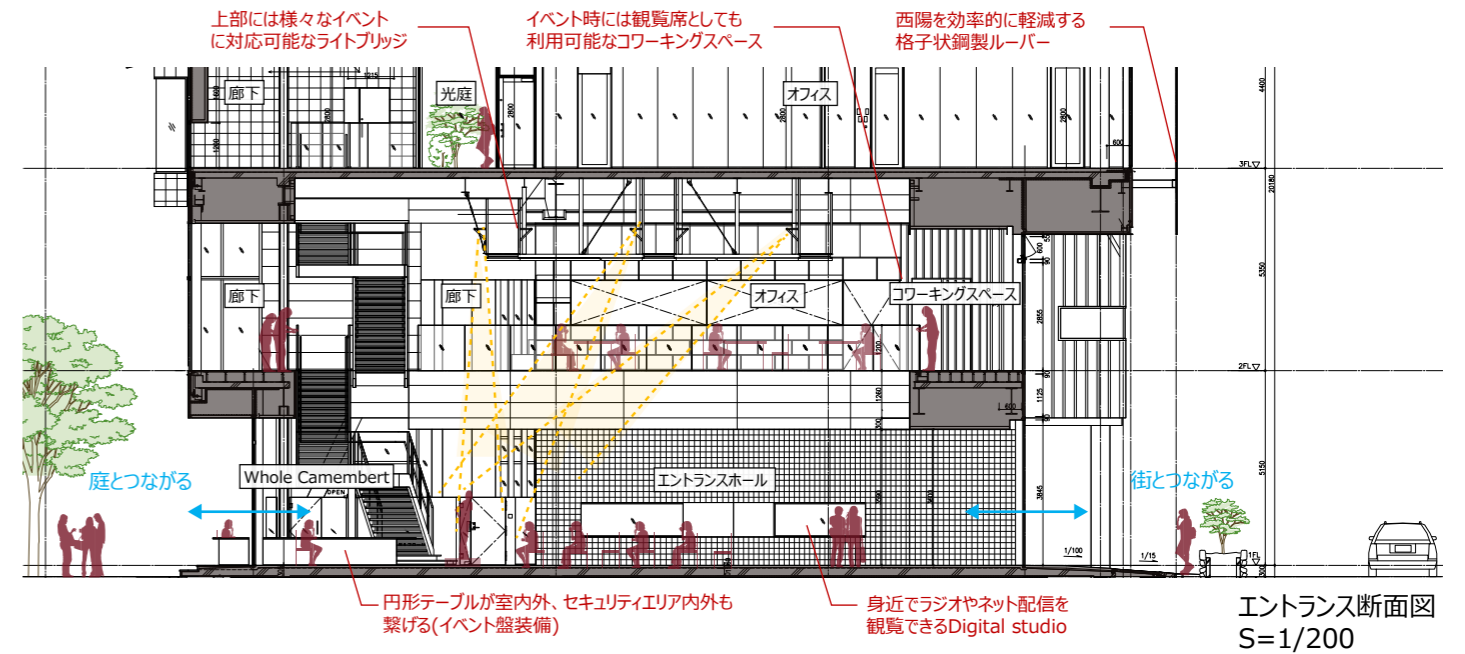
### 5-a. ランドマークとしての鉄塔デザイン

機能とデザインを両立した三角形平面の鉄塔は、昼夜において目印となって庭と共に企業の存在感を示し、地域に安心感を与える。



### 5-b. 外部への開放とイベントの開催

平断面ゾーニングを活かした段階的なセキュリティ計画により、シチュエーションに応じて1階は地域やステークホルダーに開放し、（新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり段階的に）多様なイベントや見学会、関連会社とのコラボレーションなどを継続的に行っていく。



### 5-c. 周辺への発展性の確保

まとまった駐車場の確保や四方への拡張性を有した足元空間の計画により、将来の街の変化に回答し、増築や周囲に拡充する関連施設との連携を築きやすい計画としている。

